

## 4 平成23年度各種表彰地区

(※掲載内容は表彰時点のものです。)

むら

### (1) 鹿児島県共生・協働の農村づくり運動表彰 農村集落部門 鹿児島県知事賞

#### 高山地区公民館（日置市）

##### 1 地区概要

高山地区は、日置市東市来町の北側に位置し、桑木野・尾木場・郷戸・野下・高塚東・高塚西の旧6自治会で構成される。

農業は稲作中心の地区であり、畑では主に自家消費用の野菜を栽培している。

平成22年3月に6自治会が統合し、「高山地区公民館」が発足し、地域間の連携強化と高齢者に配慮した地域づくりを目指している。

当地区の公民館（高山地区交流センター）は、旧高山小学校跡地に設置されている。平成4年の小学校廃校に伴い、地域内外との交流を図る施設として、体育館・プール・多目的広場・調理室・ピザ窯・宿泊施設・シャワー室を整備。地区公民館を滞在型の研修施設としたことにより、地区内外の人々との交流拠点として地域活性化に役立っている。

##### 2 むらづくりの内容及び成果

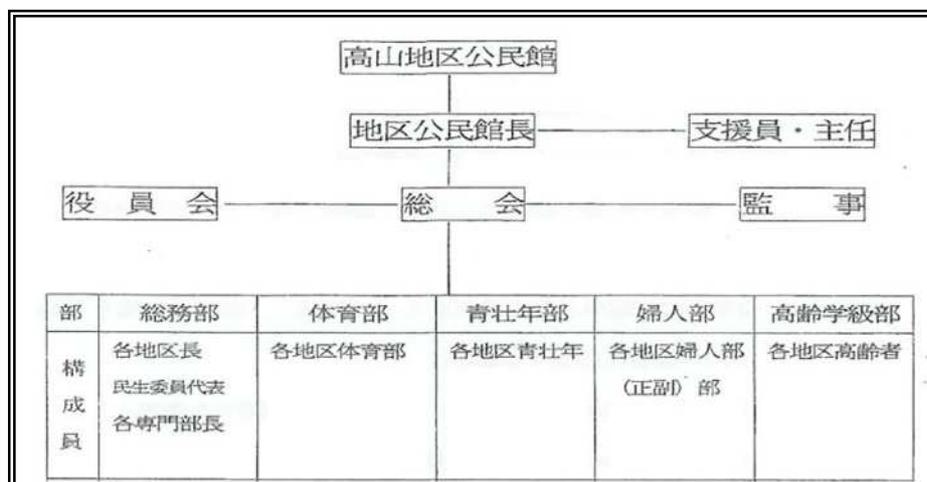
###### (1) 農村集落の再生

高山地区は、65歳以上の高齢者が141人、高齢化率60%以上（うち独居世帯49人）と、日置市内でも特に高齢化が進んだ地区である。市のコミュニティバスも運行されているが、市街地から離れた当地区は、交通の便が悪く、車を持たない住民は日々の生活に不憫な思いをしている状況にある。

地区では、旧小学校区である6自治会が合同で平成20年8月に「第1次高山地区振興計画」を作成し、道路等社会基盤・生活環境・産業・保健医療福祉・教育文化・各自治会の状況について、それぞれの地区の課題と解決方法を3年かけて検討・解決を図り、特に道路等社会基盤の状況は大幅に改善されている。

平成22年3月に旧6自治会で発足した「高山地区公民館」は、地域づくりの目標を「住む人も訪れる人も心安らぐ、自然豊かなふるさとづくり」と定め活動を行っている。

###### 【地区の組織体制図】



## (2) 新たなむらづくりの形成

地区公民館では、年6回程度、健康教室や料理教室などの開催により、高齢者の健康・生きがいをづくりと、地域間の交流を図っている。また、高齢者が次世代に郷土の味を伝える伝統料理教室を開催することにより、高齢者にとっては教えるという喜び・楽しさが生まれるとともに世代間交流の場になっている。

さらに、独居老人世帯へのボランティア弁当の配布や各種イベント時には高齢者や足の不自由な方々の送迎支援を行うなど、地区をあげて高齢者を見守る体制を作っている。

今年度で10回目となる「高山ふるさと秋祭り」の開催や地域づくり先進地研修、広報誌の発行のほか、尾木場の棚田を活用した田植え、草取り、稲刈りなど、年間を通した米づくり体験を提供する「尾木場めだかの里米づくり体験」、また、平成16年から始まった、ワラビ・ツワ採り、タケノコ掘りを体験するイベント「尾木場めだかの里散策&山菜狩り」など都市と農村の交流活動を推進している。



野下のかずら工房（高山ふるさと秋祭り）



尾木場めだかの里散策&山菜狩り

## (3) むらづくりの維持・発展

地区内の史跡・名所を掲載した地域マップや案内看板の作成を通じ、地区住民が地域資源を再発見するとともに、地区外へ向けたPR等に役立てている。

環境美化活動の取組として、毎年10月には住民全員で地区公民館を清掃し、毎年2月には婦人部で地域の道路の空き缶拾いを行っている。

また、尾木場集落では、棚田の見学者が多いことから、年に6回程度の棚田周辺の草払いなどの環境整備を行っている。

## 3 今後のむらづくりの方向性

高山地区では、今後ますます高齢化が進んでいくと考えられるが、同じ境遇にある他の地域のモデルとなるような地域づくりを目指し、NPO等との協働による送迎支援についても地区の同意を得ながら取り組む意向である。

営農面では、今後、田畑を維持していくために話し合い活動を続け、田畑の管理を引き継ぐ若者や地域外の協力が得られるよう引き続き検討していく。

# 黒木地区コミュニティ協議会（薩摩川内市）

## 1 地区概要

黒木地区のある薩摩川内市祁答院町は、さつま町と始良市に挟まれた薩摩川内市の東部に位置し、県道 396 号線及び主要市道沿いに位置する。平成 16 年度に川内市、樋脇町、入来町、東郷町、祁答院町、里村、上甕村、下甕村、鹿島村の 1 市 4 町 4 村の合併により、薩摩川内市祁答院町となり、黒木地区はその最北部に位置する。

農業は、水稻を中心にした肉用牛・園芸の複合経営が主である。園芸作物のうち、ハウスイチゴ栽培農家は 5 戸で作付面積 70a であり、その他、かぼちゃ・いも・野菜類が生産されている。地区内の水田面積 166ha のほとんどが県営ほ場整備事業等で区画整備され、良質米の生産がなされている。裏作は、飼料作物が 47ha 作付けされている。

黒木地区コミュニティ協議会は、平成 16 年に 9 自治会で発足し産業の振興、教育文化の向上、福祉の充実を図る「黒木の里づくり」をめざしている。

## 2 むらづくりの内容及び成果

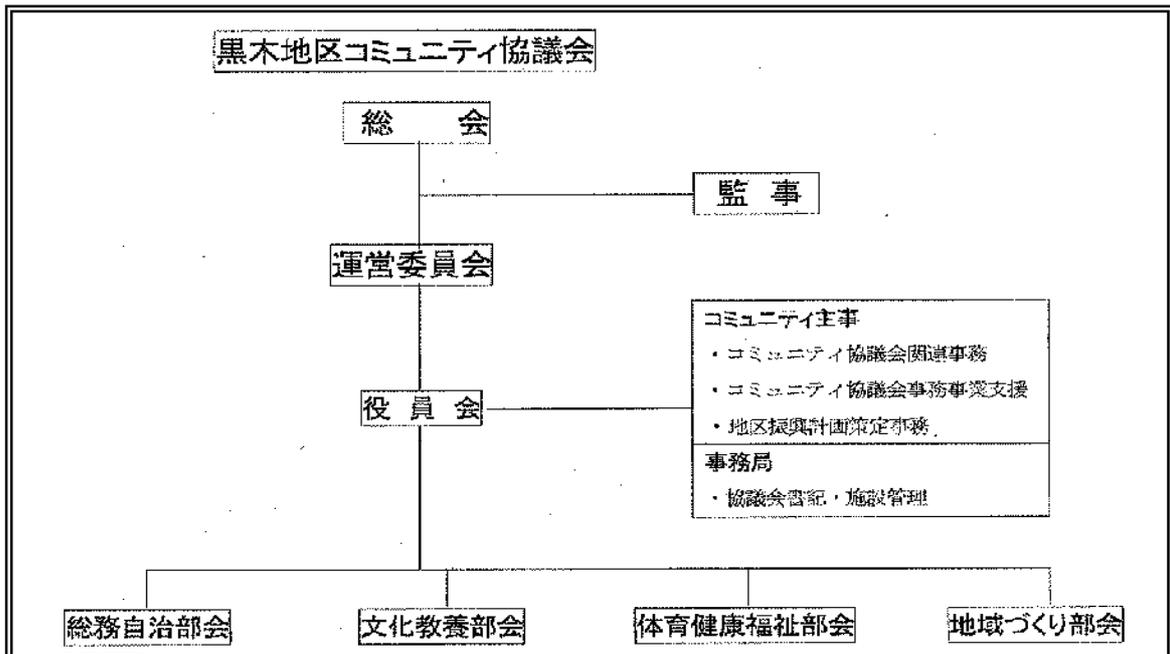
### (1) 農村集落の再生

黒木地区では、近年、過疎・高齢化による人口減少が進んでいることから、一人暮らし世帯の増加や、児童数の減少が課題となっており、農業面においても、後継者の確保に苦慮していた。

平成 16 年度の薩摩川内市の合併後、各種活動がコミュニティ（校区）単位の体制となり、黒木地区でもコミュニティ協議会で協議し、活性化に向けた課題解決のための「地区振興計画書」を策定することとなった。

検討を重ね、平成 21 年 8 月に住民の合意のもと「黒木地区第 2 期地区振興計画書」を策定し「むらのかたち」と位置づけた。

### 【地区の組織体制図】



## (2) 新たなむらづくりの形成

地域としては、数十年前から、まとまりのある校区単位の活動を続けており、むらのかたち策定後のキャッチフレーズを「黒木の里づくり」とし、年間を通した各種活動をさらに推進することとなった。

平成 23 年度で 33 回目を迎える「ふるさと歩こう会」は、当初の子どもたちの史跡めぐりから発展し、今では空き缶拾いなどの環境美化も併せて行っており、平成 23 年度は、小学生からお年寄りまで 70 数名が参加した。

また、集落対抗のグランドゴルフ大会等の開催や平成 23 年度で 56 回目を迎える小学校との合同運動会など、地域の融和を図るための各種イベントも行っている。

さらに、農家 7 戸で組織された「黒木浦減農薬米生産組合」は、都市部との交流事業を実施している。同組合は、薩摩川内市グリーン・ツーリズム協議会の会員となっており、同協議会の一員として、昔ながらの三角枠を使った田植えや稲刈り体験、手作り料理による昼食会など、グリーン・ツーリズムを推進している。



ふるさと歩こう会



三角枠を使った田植え

## (3) むらづくりの維持・発展

鳥獣被害防止対策では、黒木地区コミュニティ協議会運営委員会や各自治会による話し合いを推進し、地区住民の共通認識として、地区全体で被害防止に取り組むこととしており、平成 22 年度から順次、地区のほぼ全域を覆う形で防護柵等の設置が計画されている。

黒木小学校の児童数が減少していることから、「黒木小を盛り上げる会」や P T A で小学校の児童数確保に取り組んでいる。その取組の結果、公営住宅が地区内に 39 戸建設され、今後の児童数確保が期待されている。

また、平成 3 年に復活させた地区の伝統芸能である「鷹踊り」を黒木小学校の児童が夏祭りや運動会で毎年披露している。最近では、「鷹踊り保存会」も結成され、地区一体となり、地区行事の中で伝統芸能が継承されている。

## 3 今後のむらづくりの方向性

鳥獣被害防止対策については、鳥獣の餌場となりやすい放置果樹の伐採や鳥獣用捕獲檻の設置など、地区が一体となって取り組んでおり、今後とも生産者の生産意欲向上を図り、耕作放棄地の発生防止に努めていく。

「黒木浦減農薬米生産組合」で取り組んでいるグリーン・ツーリズム推進事業について、今後この輪を広げ、地区全体の取組となることを目指している。

# 大始良地区共生・協働むらづくり委員会（鹿屋市）

## 1 地区概要

大始良地区は、鹿屋市の南部に位置し、1級河川肝付川の支流である大始良川を有し、6町内会で構成される。

佐多・大根占と鹿屋を結ぶ要路に位置し交通量も多い。平坦な土地が広がり豊かな農村風景を残しつつも、市街地に比較的近くて便利という面もあるため、近年、定住化も進み、自衛隊や南大隅地域に勤務する人等が移住してくるなど混住化が進んでいる。

農業面では、大始良川沿いに水田が92haあり、普通期水稻が栽培されている。台地では、甘藷、人参、ごぼう、加工ばれいしょ等の根菜類の栽培が盛んで、国営肝付中部畑かん区域であることから、今後、かんがい施設の整備等による更なる生産性の向上・農業経営の安定が見込まれる。

養豚・繁殖牛・肥育牛経営で大規模農家が多い反面、集落によって高齢化・過疎化が進行し田畑など耕作放棄地が生じてきている地域もある。

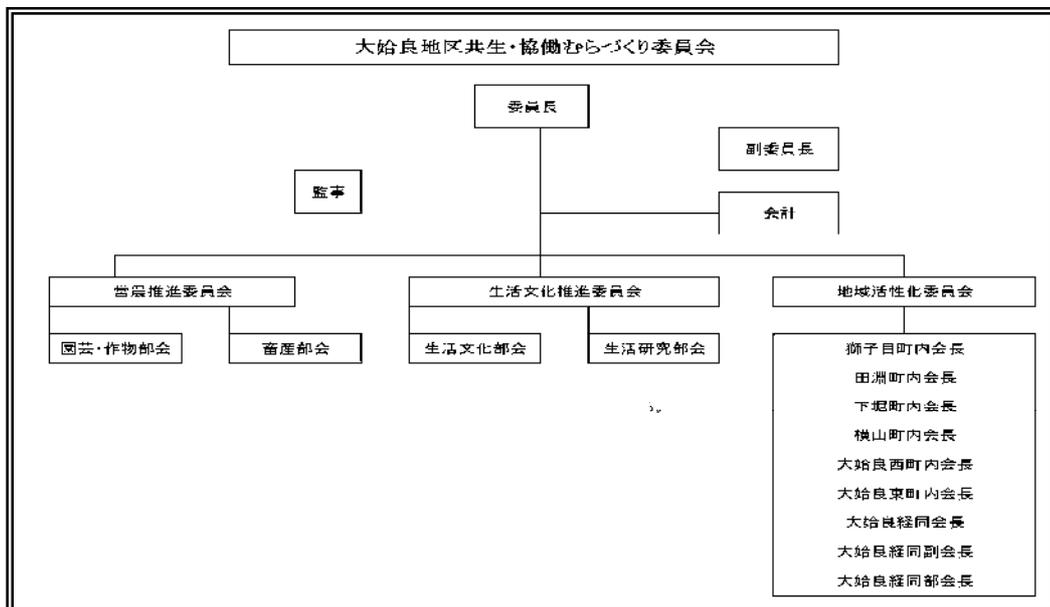
## 2 むらづくりの内容及び成果

### (1) 農村集落の再生

少子高齢化や市街地に近いことから、混住化が進み地域の連帯感が薄れつつある中、平成14年頃、歴史・文化的価値のある旧大始良村時代の農協所有の石蔵倉庫の活用策の検討等を契機に、地域内のボランティア活動を行ってきた「大始良経済文化同友クラブ」と6町内会が連携し、石蔵倉庫を交流拠点としたむらづくりの取組を開始した。「大始良経済文化同友クラブ」は、平成3年に農商工業者・公共団体・医療機関・教育機関等に携わる地元有志で発足した組織である。

平成21年2月には、県の「共生・協働のむらづくり支援事業」の導入検討と併せて、話し合い活動を重ね、6町内会と大始良経済文化同友クラブで構成される「大始良地区共生・協働むらづくり委員会」を設立した。

### 【地区の組織体制図】



平成 21 年 7 月，共生・協働のむらづくり支援事業に取り組むこととし，石蔵倉庫を活用しながら「生きがいを感じる地域づくりや農産物や加工品販売で地域の連携強化と活性化を図る」をテーマに，地域ネットワークの充実を図るため，キャッチフレーズを「よろって すいが (みんなで集まってやろう)」とする「むらのかたち」を作成した。

## (2) 新たなむらづくりの形成

石蔵倉庫は，崩壊寸前の危険な状態であったことから，平成 22 年 10 月に解体された。

その後，むらづくり委員会が中心となって，石蔵倉庫の一部で開催していた青空市を倉庫跡地で毎月第 3 日曜日に定期的で開催し，毎回多くの地区内外の買い物客で賑わっている。

地区の女性たちも農産物加工に取り組むようになり，平成 22 年に組織内の女性で構成される生活研究部会「青空加工グループ」を設立し，加工品の販売だけでなく地元幼稚園などでの郷土料理による食育活動や，資質向上を図るための先進地研修等の取組を行っている。

また，農業が盛んな地域であることを生かして，平成 23 年度からは地区内の幼稚園や小学校の農業体験学習などにも取り組むとともに，地区内の高齢者福祉施設とも連携し，世代間の交流活動を推進している。



青空市の開催



農業体験学習

## (3) むらづくりの維持・発展

農業面では，地区内の 3 組織が水土里サークル活動に取り組み，農業施設の機能点検や農道・農用地・開水路・ため池等の草刈り，補修などの共同作業を実施している。また，2 組織が中山間地域等直接支払制度により耕作放棄地の発生防止の取組を行っている。

平成 21 年からは，地域外交流を拡大するため，農家民泊で都市部の修学旅行生の受入れを開始し，これまでに 2 回の受入れを行っている。現在，地区内に受入農家が 5 軒あり，今後も受入農家軒数を増やすなど，受入態勢の強化を図っていく。

## 3 今後のむらづくりの方向性

少子高齢化による人口減や世代間交流の場の減少が進む中，遊休農地を活用し，食と農をテーマにした幼稚園，小学校の農業体験学習や福祉施設と連携した取組などを引き続き行い，子どもから高齢者まですべての世代が住みやすく生きがいを感じる地域づくりに取り組む。

また，むらづくり委員会の活動を通じ，情報の共有化を図るためのホームページの開設を視野に「よろって すいが」の共生・協働のむらづくりを展開していく。

# 阿権むらづくり委員会（伊仙町）

## 1 地区概要

阿権集落は、伊仙町の西側に位置し、南に東シナ海を望み、北に犬田布（いぬたぶ）岳（通称：徳之島富士）がそびえ、東に鹿浦川、西に阿権川の深い谷に挟まれており、昭和34年に架橋されるまでは陸の孤島と言われていた。

阿権集落は、一集落一小学校校区という特性があり、阿権小学校区と同一の範囲である。阿権小学校の校章である青鳩になぞらえて呼ばれる「阿権青ばと」（博愛と郷土を愛する心を育む）の精神をもとに、長年、自発的な活動を行ってきた。

現在、集落の約40%が65歳以上の高齢者となり、集落の自治機能の低下が懸念されている。

農業面では、主要な農作物は、徳之島の基幹作物である土地利用型作物のさとうきびであり、77ha栽培している。また、集落の耕地面積に限りがあることから、少ない面積でも収益が期待できるばれいしょ・かぼちゃ・しょうが等の園芸作物等が栽培されている。近年では、40～50代のUターン農家が約10戸に増えており、新規作物のごま、まあざく（長命草・ボタンボウフウ）などの栽培にも取り組んでいる。

## 2 むらづくりの内容及び成果

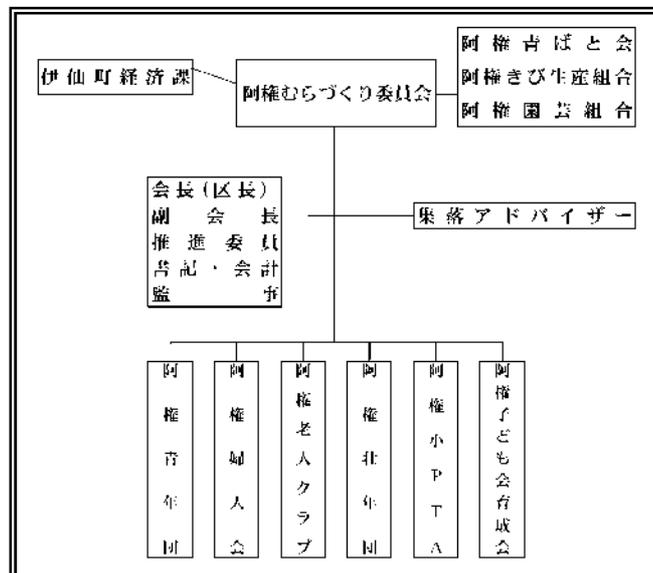
### （1）農村集落の再生

従来は区長を中心に各小字の代表で構成する小組合長会で集落の運営を行ってきたが、平成22年度に「共生・協働のむらづくり支援事業」に取り組んだことを契機に話し合い活動を重ね、平成22年7月に子ども会から老人クラブまで各世代を含めた全住民で構成する「阿権むらづくり委員会」を設立した。

平成20～23年度の「水土里サークル活動」や平成22～23年度の「共生・協働のむらづくり支援事業」の事業導入の際の計画検討のための話し合い等を通じ、集落の将来像である「むらのかたち」を作成した。

また、むらづくり委員会では、役員等による沖永良部島の取組視察を行い、集落民による農産物直売所の運営などのむらづくり活動を実際に見て勉強したことで、「むらのかたち」の実現に向けた意識向上が図られた。

### 【地区の組織体制図】



## (2) 新たなむらづくりの形成

平成23年9月から、婦人会を中心としたメンバーで集落公民館の加工室を活用し、まあざく（長命草・ボタンボウフウ）や地元農産物を使った加工品の試作（長命草ドリンク、長命草三杯酢、長命草天ぷらなど）を行い、平成23年11月の町の産業祭において試食会やアンケートを実施した。今後、試作・検討を重ね、1～2年後には町内の直売所「百菜」等で販売できるよう準備を進めている。

また、平成22年度に集落内に農家民宿が開業（1軒：「幸ちゃんの家」）し、また、近々、同敷地内に地産地消のカフェがオープンする予定で、それらの施設と連動したさらなる交流人口の拡大を図ることとしている。

さらに、集落への交流人口増を図るため、集落の入り口に、集落資源や農家民宿など、むらの情報を盛り込んだ案内看板を設置した。



まあざくの植え付け



阿権八幡神社境内で緑のじゅうたん作り

## (3) むらづくりの維持・発展

集落の氏神が祭られている阿権八幡神社の清掃を定期的に行い、境内には子ども会と共に芝生を植えて緑のじゅうたんを作ったことにより、景観が良くなり、訪れる人が増えるなど活気が生まれた。

また、集落の資源として、江戸時代から昭和30年頃まで、島内で大地主として名声をはせていた平（たいら）家の石垣や、300年ガジュマルといわれる歴史ある巨大ガジュマルの周辺が草に覆われていたため、住民が数日にわたり補修・清掃を行った結果、集落住民のウォーキングコースとして活用されるなど、集落資源の魅力を再発掘でき、また、住民の交流・憩いの場として親しまれている。

## 3 今後のむらづくりの方向性

全住民で構成される「阿権むらづくり委員会」を中心に集落民総参加のむらづくりを行い、「阿権青ばと」（博愛と郷土を愛する心を育む）の精神を後世に伝え、人材育成を図っている。その一環として、小学校と一体となった田植え等の体験を通して、先人が結いの精神で協力して栽培していた稲作文化の伝承等を引き続き行っていく。

営農面については、現在、整備中の徳之島用水による通水を契機に、更に少ない面積でも収益が期待できる園芸作物等の導入に向けて、むらづくり委員会の協力団体である阿権園芸組合を中心に力を入れて取り組んでいく。

また、農家民宿を増やし、既存の農地を生かした農業体験の受入や集落のお母さん方による伝統料理の提供等を通じて、都市と農村の交流を進めるとともに、現在整備中である集落独自のホームページの開設により、空き家情報の発信等による定住促進を図る。

(2) 全国農林水産祭 むらづくり部門 日本農林漁業振興会会長賞

久富木区公民館（さつま町）

1 地区概要

さつま町の南部，薩摩川内市と接する5集落・約300世帯の中山間地域であり，地区内に川内川支流の久富木川が流れ，その流域に水田が広がり，水稻や肉用牛，たけのこの等の生産が盛んである。

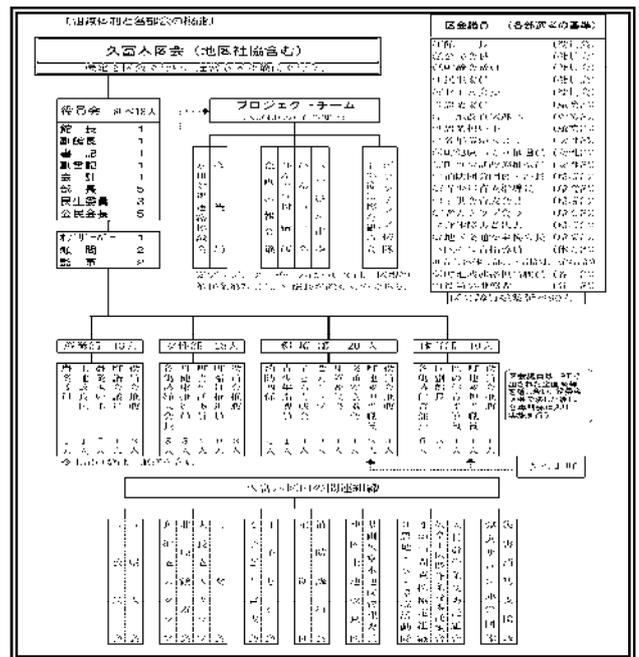
久富木区は，昭和56年に小学校分校が廃校となり，62年には国鉄宮之城線薩摩山崎駅が廃止となって，主要公共施設と外との玄関口を失った。地区を襲ったこの閉塞感から脱却すべく，平成7年度に，むらづくり計画書を作成し，これに基づく取組を始めた。9年度には，悲願であった区公民館を建設し，5集落が共に活動する拠点とした。この拠点を中心に活発な話し合いに基づく住民一体となったむらづくりに取り組んでいる。

2 むらづくりの内容

(1) 農村集落の再生

5集落の代表や民生委員など約90名に「区会議員」を委嘱し，住民の多くが話し合いに参加している。この他の住民も毎月発行される「久富木区新聞」で様々な出来事を共有している。

農業面では，2つの農作業受託組合，3つの水土里サークル組織，4つの中山間直払協定組織を中心に，地域ぐるみで営農や環境保全活動に取り組んでいる。



(2) 新たなむらづくりの形成

平成10年から，地区内の様々な1番（家畜の飼育数や踊りの指導者最高齢など）を認定する「おはんが一番久富木大賞」を開催し，70名近くを表彰してきた。

また，平成13年に始めた「かけぼし米オーナー制度」による日帰り交流をきっかけに，18年からは，宿泊して様々な田舎生活を体験する「久富木ぴんコロ村一宿一飯活動」へと都市農村交流活動を発展させている。



おはんが一番久富木大賞

### (3) むらづくりの維持・発展

久富木区では、「人間性の向上・経済性の向上・地域性の向上」を活性化のテーマに掲げて様々な活動をしている。

#### ○人間性の向上

平成10年から、地区内の様々な1番（家畜の飼育数や踊りの指導者最高齢など）を認定する「おはんが一番久富木大賞」を開催し、これまで70名近くを表彰している。

地区のみんなで1番を認めることで向上心を育み、人材の発掘に取り組んでいる。

#### ○経済性の向上

「町ではすくじらでも鹿児島市に一番近い田舎」の逆転の発想で都市農村交流に取り組み、平成13年から「かけぼし米オーナー」を、18年からは田舎での宿泊体験まで提供する「久富木ぴんコロ村一宿一飯活動」を実施している。

また、直売所「べっぴん市場」の運営は、高齢農家が野菜をつくって売ることによって収入を得るだけでなく健康づくりや生きがいに繋がっている。

#### ○地域性の向上

平成11年から、景観づくりとして「十年後に桜を観る会」を組織し、桜オーナーの募集を始めた。

地域出身者など700人以上から寄付が集まり、4年で1,000本以上を植樹した。

桜は住民のボランティアで管理し、作業にかかる実費分を地域通貨「ユイ券」で補填している。

ユイ券はべっぴん市場や地区の商店で使用でき、商店の維持にもつながり、高齢者などの買い物場所の確保にも貢献している。

久富木の千本桜は、地域出身者の愛郷心を育んでいる。

また、全国の「久富木さん」との交流でも大切な役割を担っている。



かけぼし米オーナー



地域通貨「ユイ券」



桜の植樹活動

### 3 むらづくりの成果

久富木区は、『久富木ぴんコロ村一宿一飯活動』に代表されるユニークなネーミングの活動を展開し、農業面では都市農村交流などに取り組み、生活・環境面では人材発掘や千本桜植樹を達成することにより、地区住民同士の結束が強まるとともに、地区外住民との絆づくりや地域活性化に繋がっている。



千本桜

## 共生・協働のむらづくり活性化事業（平成24年度～）

### 1 事業の目的

集落の農地，豊かな自然，伝統文化など，地域資源を生かした農村の活性化を図るため，地域住民の自主的な話し合いを基本に大学やNPO法人等の地域外の活力も生かした「共生・協働のむらづくり」を推進する。

### 2 事業主体

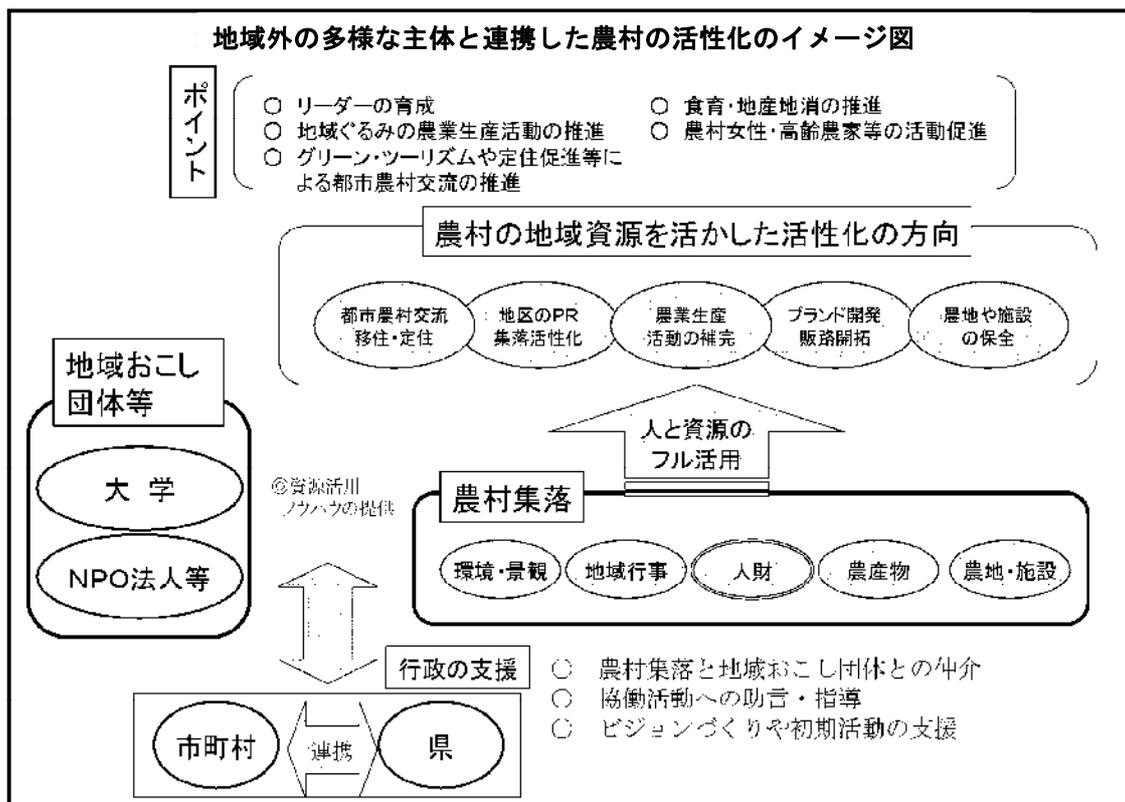
農村集落等

### 3 補助率

定額（上限500千円/地区・年），1地区2年間継続

### 4 実施地区

県内7地区



※地域おこし団体：大学やNPOなど，農村集落を対象に地域貢献や地域の活性化を目的に活動する団体

## 地域営農の仕組みづくり実践事業（平成24年度～）

### 1 事業の目的

むらづくりの基盤となる持続性のある農業生産活動を確保するため、農業生産面において多数を占める担い手農家のみでなく、営農意欲のある高齢・小規模農家も役割とやりがいをもって、地域営農に参画する仕組みづくりを推進する。

### 2 事業主体

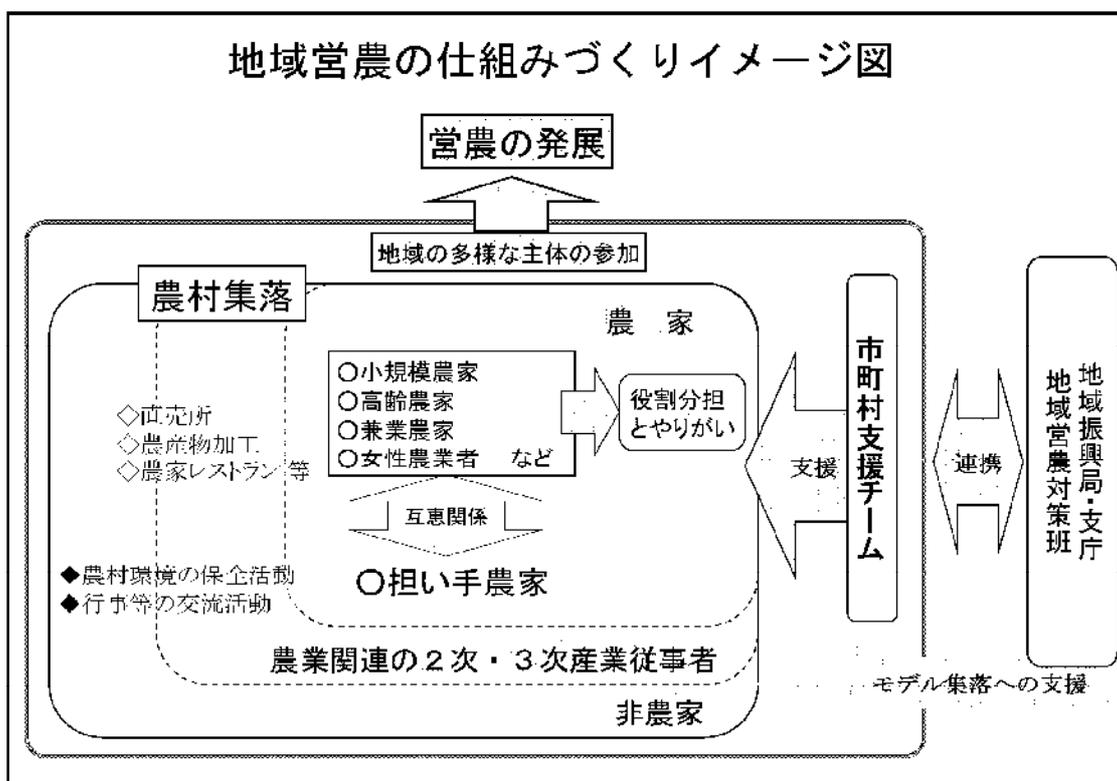
農業者等で組織する団体

### 3 補助率

定額（上限100千円/地区・年），1地区2年間継続

### 4 実施地区

県内7地区



# 鹿児島県共生・協働の農村づくり運動表彰事業実施要領

## 第1 目的

共生・協働の農村づくり運動（以下「農村づくり運動」という。）の全県的な展開に当たり、地域の自主的な話し合いを基本に、集落の推進体制の見直し等による「農村集落の再生」、都市・農村交流などを通じた「新たなむらづくりの形成」、また耕作放棄地の発生防止及び地域資源の活用等による「むらづくりの維持・発展」の実践活動を行っている地区や、共生・協働のむらづくりに功績のあった個人及び支援活動に貢献のあったNPO法人等の団体を表彰し、広く県民に紹介する。

## 第2 実施主体 鹿児島県

## 第3 表彰の種類等

この表彰は、第1の目的に照らして、表彰することが適当と認める者に対して行うこととし、表彰に次に掲げる種類及び対象部門を設ける。

### (1) 表彰の種類

鹿児島県知事賞

### (2) 表彰の対象部門

ア 農村集落部門

イ 功労者部門

ウ 支援団体部門

### (3) 表彰の対象除外

次に掲げる者は、この表彰から除外する。

ア 第3の(1)に掲げる賞と同一の賞を過去に受賞している者

イ 国、県から同一目的の表彰を過去に受賞している者

ウ その他表彰することに適さないと認められる者

## 第4 表彰の資格基準

この表彰の対象となる部門ごとの資格基準は、次のとおりとする。

### (1) 農村集落部門

農村づくり運動が展開されている1～数集落のまとまりで、地域の活性化が図られ、共生・協働の実践活動が、他の地域の模範となる地区。

### (2) 功労者部門

むらづくりのリーダーとして永年にわたり、地区のむらづくりに顕著な功績があり、その活動が他の模範となる個人。

### (3) 支援団体部門

農村づくり運動が展開されている地区に対する支援活動に顕著な貢献のあった団体。

## 第5 表彰の基準

表彰の基準は、次に掲げるとおりとする。ただし、(1)のウは任意とする。

### (1) 農村集落部門

ア 住民の話し合いや総意に基づくむらの目標や将来像（以下「むらのかたち」という。）があること。

イ 地区の住民が主体となって「むらのかたち」の実現に向けた取組を行っていること。

ウ 地区外の多様な主体と連携した取組を行っていること。

エ 農村環境の保全や地域資源の発掘・活用等の取組を行っていること。

### (2) 功労者部門

永年にわたり地区の話し合い活動や合意形成に中心的立場として寄与していること。

### (3) 支援団体部門

ア 地区の住民と連携し、他の地区に還元できるモデル的なむらづくり活動に寄与していること。

イ 地域資源の掘り起こしや活用ノウハウ提供など、地区と協働したむらづくり活動を行っていること。

## 第6 候補者の推薦

個人・団体及び市町村長、地域振興局・支庁農林水産部長は、第4の基準に該当し、ふさわしい候補者があるときは、農政部長（農村振興課扱い）に推薦する。

なお、推薦の方法は、次のとおりとする。

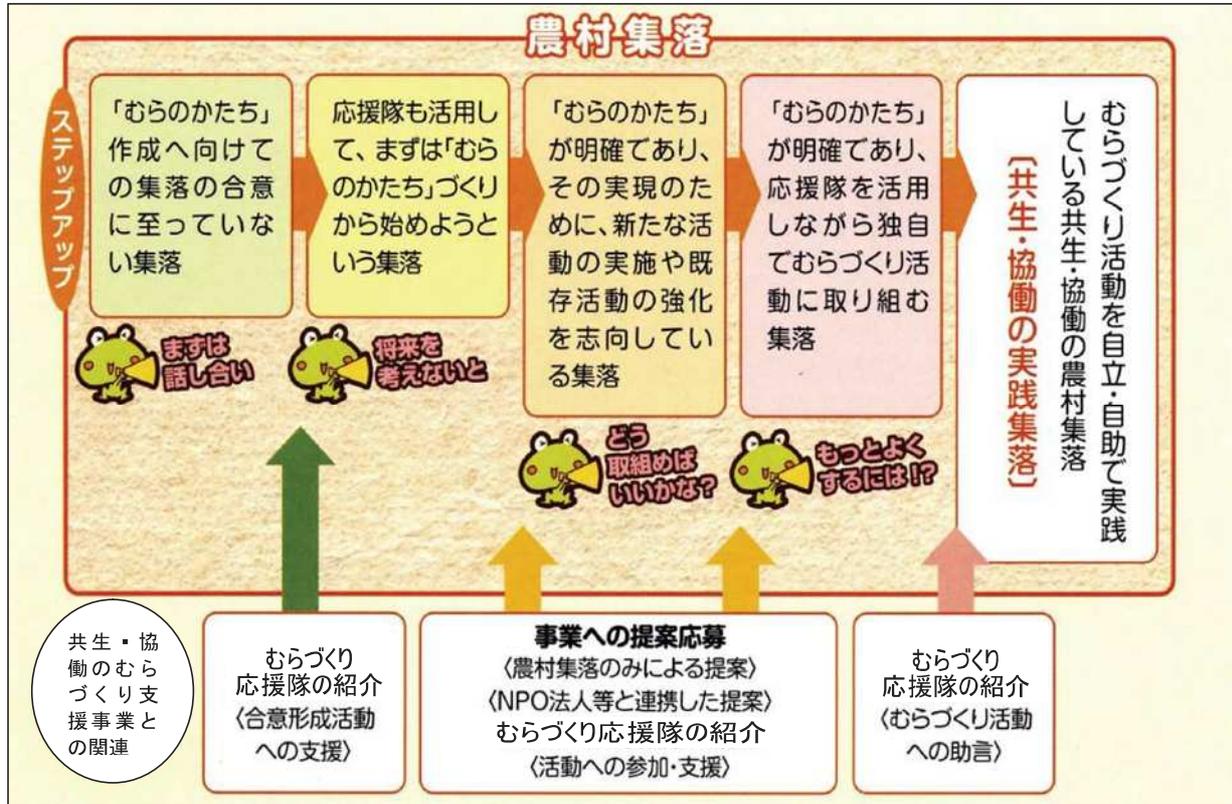
### (1) 個人・団体が推薦する場合、推薦調書（別記第1号様式）と推薦書（別記第2号様式）（以下「調書」と総称する。）を市町村長に提出する。

市町村長は、調書に推薦理由（任意様式）を添えて、地域振興局・支庁農林水産部長を経由して農政部長に提出する。

### (2) 市町村長が推薦する場合、調書を地域振興局・支庁農林水産部長を経由して農政部長に提出する。

### (3) 地域振興局・支庁農林水産部長が推薦する場合、調書を農政部長に提出する。

共生・協働の農村づくり運動で対象とする集落のイメージ



共生・協働の農村づくり運動  
～人と自然と地域が支え合う みんなで創る農村社会～

むらづくりホームページ：

<http://www.pref.kagoshima.jp/sangyorodo/nogyo/noson/mura/index.html>

県ホームページ → 産業・労働 → 食・農業 → 農村振興

編集 鹿児島県農政部農村振興課  
〒890-8577  
鹿児島市鴨池新町10番1号  
電話 099-286-3108  
FAX 099-286-5589

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

(参考)

## むらづくり応援隊を紹介します！

### むらづくり応援隊とは？

地域内外の多様な主体が連携した共生・協働のむらづくりを推進するため、農村集落の「むらづくり委員会」等からの要請に応じて、むらづくり活動を支援する団体（特定非営利活動法人等）や個人（むらづくり実践集落リーダー等）を紹介するものです。

平成24年6月現在、28団体、31個人を登録しています。

#### 1 特定非営利活動法人（NPO法人）等の団体

No.	応援隊名	専門分野	代表者名等	住所
1	特定非営利活動法人 桜島ミュージアム	環境教育 地域資源の見直し	福島 大輔	鹿児島市
2	特定非営利活動法人 PandA	地域資源の見直し	早川 由美子	鹿児島市
3	特定非営利活動法人 まちづくり地域 フォーラム・かご しま探検の会	地域資源の見直し	東川 隆太郎	鹿児島市
4	鹿児島県土地改良 事業団体連合会	農村集落の再生	大久保 誠	鹿児島市
5	鹿児島大学生涯 学習教育研究セン ター	団塊世代の受入	小栗 有子	鹿児島市
6	鹿児島まちの駅連 絡協議会	文化でつなぐむらづくり	宮路 高光 河井 達志	鹿児島市
7	特定非営利活動法人 NPOさつま	地域資源の見直し	橋口 勝	鹿児島市
8	特定非営利活動法人 ふるさと創夢課	農業・農村の支援全般	新穂 安憲 前田 勉	鹿児島市
9	特定非営利活動法人 エコ・リンク・ アソシエーション	グリーン・ツーリズム、 農業体験	下津 公一郎	南さつま市
10	特定非営利活動法人 NPO南さつま	グリーン・ツーリズム、 農業体験	松山 進	南さつま市
11	花渡川人の会	環境教育	菊野 憲一郎	南さつま市
12	坊津やまびこ会	グリーン・ツーリズム	鮫島 昭一	南さつま市
13	特定非営利活動法人 NPOいずみ	文化でつなぐむらづくり	小松 照子	出水市

No.	応援隊名	専門分野	代表者名等	住所
14	特定非営利活動法人 さわやか出水女性の集い	文化でつなぐむらづくり	矢野 ミツ	出水市
15	中津川地区 むらづくり委員会	地域資源を活かした特産品づくり， 伝統芸能の復活	米森 十一	さつま町
16	久富木区公民館	文化でつなぐむらづくり	満留 民雄	さつま町
17	特定非営利活動法人 霧島食育研究会	食育普及，食育で地域づくり	千葉 しのぶ	霧島市
18	特定非営利活動法人 くすの木自然館	環境教育 地域資源の見直し グリーン・ツーリズム	立山 芳輝 浜本 奈鼓	始良市
19	川添地区むらづくり 推進委員会	有機米の契約栽培，安心安全な農 産物生産，地域資源の活用等	桑原 佐年	湧水町
20	特定非営利活動法人 ローズリングかのや	文化でつなぐむらづくり	尾曲 伸一 丸野 里美	鹿屋市
21	中谷地区 むらづくり委員会	幻の米「白玉米」を活用した地域 活性化の取組，小学校等と連携し た伝統行事・イベント等の実施， 環境保全型農業の推進 等	小園 宗治	曾於市
22	鶴木地区 むらづくり委員会	美化運動，コミュニケーション強 化，環境整備	神崎 憲幸	曾於市
23	大隅の國 やっちく松山藩	農産物販売促進	坂元 正人 末原 和幸	志布志市
24	特定非営利活動法人 ジュントス	団塊世代の受入	有馬 寛治 長野 広美	西之表市
25	特定非営利活動法人 環境福祉サービス	高齢者のコミュニティ	橋口 勝 徳永 郁郎	中種子町
26	特定非営利活動法人 チャレンジドサポート奄美	障害者のコミュニティ	向井 扶美	奄美市
27	特定非営利活動法人 ディ!	文化でつなぐむらづくり	麓 憲吾	奄美市
28	和むらづくり委員会	農地の有効利用，環境整備	大福 敏三	和泊町

## 2 むらづくり実践集落リーダー等の個人

No.	応援隊名	専門分野	住所
29	石窪 奈穂美	農産物特産品開発，都市農村交流，むらおこし， 消費者ニーズ・消費者問題，環境エネルギー教 育，生涯学習，男女共同参画 等	鹿児島市
30	大原 タツ子	組織育成，男女共同参画による地域づくり，食育 に関する意識啓発・実践指導	鹿児島市

No.	応援隊名	専門分野	住所
31	川畑 英一	マーケティング, セールスプロモーション, イベント企画立案, 農産物販売, 都市農村交流	鹿児島市
32	大久保 匡俊	地域特産品の消費拡大の取組	いちき串木野市
33	大山 辰夫	ミシマカップヨットレース, ジャンベ国際交流, 俊寛祭り, 伝統芸能継承, 特産品開発	三島村
34	末永 俊浩	インターネットを利用した情報発信, パソコンを利用した販売管理	南さつま市
35	東馬場 伸	人づくり, 組織育成, 都市農村交流, イベント企画立案, 自然学習, 農業体験指導, 修学旅行生受け入れ, 伝統芸能復活への取組, むらづくり活動, 担い手の育成・指導	南さつま市
36	水溜 政典	むらおこし, 金峰町村おこしグループ金花咲想会	南さつま市
37	大藪 秀巳	農村集落の再生	南九州市
38	水留 一紀	むらづくり活動	南九州市
39	竹崎 キヨ子	新たなむらづくりの形成, むらづくりの維持・発展	出水市
40	小城 年久	企業経営, 山芋の契約栽培	薩摩川内市
41	徳田 勝章	コミュニティを活用した共生・協働の手づくり自然観光公園柳山アグリランド事業, 農地・水・環境保全向上対策事業, 手づくりコンサートなどイベントの企画立案事業, 食・農・住の定住促進事業等	薩摩川内市
42	久留須 俊彦	むらおこし, 人づくり, 国際交流, イベント企画立案, 伝統芸能復活, 組織育成, 生涯学習, 農村集落の再生	さつま町
43	大迫 政喜	むらおこし, 人づくり, 組織育成, イベント企画, 直売所運営 (団体運営から法人化設立), グリーン・ツーリズムやボランティアホリデーによる地域活性化推進及び都市農村交流, 安全教育 (青少年健全育成, 体験活動), 農産物販売 等	長島町
44	濱田 孝一	グリーン・ツーリズム実践 (民宿夕暮荘経営), むらおこし, イベント企画立案, 実践国際交流	長島町
45	石田尾 博夫	むらおこし, 人づくりリーダー養成, 生涯学習, 都市と農村交流, 農業観光とマーケティング, 農村景観, 男女共同参画の推進 等	霧島市
46	高橋 堯志	むらおこし, 商品開発	霧島市
47	東麻生原 勉	むらおこし, 人づくり, 人とのネットワーク, 農産物加工, 農産物販売, 販路開拓, 都市農村交流, むらづくり活動	霧島市

No.	応援隊名	専門分野	住所
48	中村 周二	むらおこし, 人づくり, 都市農村交流, イベント企画立案, 自然学習, 民宿経営, グリーン・ツーリズム, NPO法人と連携したむらづくり	伊 佐 市
49	和田 淳一郎	行政を活用したむらおこし, 担い手の育成, 家族経営協定, 集落営農の推進等	始 良 市
50	伊野 幸二	まちづくり, 国際交流, 都市農村交流 等	鹿 屋 市
51	豊重 哲郎	行政に頼らない「むら」おこし, 青少年教育, 商品開発, 空家対策, 共生・協働の集落営農, 家畜等の悪臭対策 (土着菌活用)	鹿 屋 市
52	前田 清輝	都市農村交流, 農業体験学習, 農政への意見・提言, 国際交流, PTA活動	垂 水 市
53	川添 義一	むらおこし, 人づくり, 組織育成, 生涯学習, イベント企画立案, 自然学習等	曾 於 市
54	福留 勉	新たなむらづくりの形成, むらづくりの維持・発展	志布志市
55	川前 康博	農村集落の再生	錦 江 町
56	榎元 一巳	地元材料の生産から加工・販売 (特産品開発), 都市農村交流, イベントを通じたむらづくり活動	西之表市
57	黒木 農夫太郎	社会教育, むらづくり活動	中種子町
58	速水 治美	農村集落の再生	和 泊 町
59	麓 才良	郷土研究, まち歩き	与 論 町

## むらづくり応援隊の紹介について

農村集落の「むらづくり委員会」等の要請に応じてむらづくり応援隊を紹介します。詳しくは、お近くの市町村、県地域振興局・支庁又は県庁農村振興課へお問い合わせください。

